

(様式3)

自己評価結果票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>法人理念を踏まえ利用者を主体とした内容でグループホーム独自の理念を明文化し、地域密着型サービスの理念も踏まえ玄関の見やすい場所に設置し入居時に本人・家族に説明している。</p>	<p>法人理念に地域密着型サービスとしての役割を指した内容を取り入れる。</p>
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>管理者は理念を繰り返し説明すると共に会議録に理念を明示し職員への周知を図る取り組みを行っている。</p>	<p>すべての職員が具体化された理念を理解し、カンファレンスの中で話し合う機会を持ちながら日々のケアに取り組んでいきたい。</p>
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>管理者は理念を説明すると共に毎月のホーム便りに理念を明示し家族への周知を図るよう取り組んでいる。</p>	<p>法人理念に地域密着型サービスとしての役割を指した内容を取り入れホーム便りに理念を明示し家族への周知を図るよう取り入れる。</p>
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>日常生活の中で散歩などの時、隣近所の方とも話をする機会や野菜などの頂き物をもったり交流の機会をもっている。</p>	<p>加東市の行事などにも参加しいろいろな方との交流がもてるよう取り組んでいる。</p>
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>地区委員・民生委員の方との連携が図れており、地域住民のホーム行事への参加や、入居者が地域行事の『とんど』へ参加するなど地域の人々との交流を積極的に行っている。</p>	<p>地域ボランティアの受け入れなどグループホームの理解が得られ、地域にとけ込めるよう努力する。</p>

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員 の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮 らしに役立つことがないか話し合い、取り 組んでいる</p>	<p>運営推進会議時に民生委員から地域老人会の活動 内容などを聞き、施設としてどのような組み が良いか話し合っている。</p>		<p>地域の為に役立つ取り組みを職員全員で話し合 い、地域高齢者の暮らしを支える組みを考 えていきたい。</p>
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び 第三者評価を実施する意義を理解し、評価 を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>前年度の評価結果を踏まえ職員間で検討・見直し を行い改善に向け取り組んでいる。</p>		<p>職員全体で自己評価に取り組み、業務を振り返り 外部評価の結果を踏まえサービスの充実に向け取 組んでいる。</p>
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの 実際、評価への取り組み状況等について報 告や話し合いを行い、そこでの意見をサー ビス向上に活かしている</p>	<p>家族代表・民生委員・加東市包括支援センター主 任介護支援専門員・市内に所在する居宅介護支援 事業所の介護支援専門員・併設の特別養護老人 ホーム施設長・事業所管理者兼計画作成担当者の メンバー構成で2ヶ月に1回実施しサービス向上 に活かしている。</p>		<p>推進委員から地域に働きかけがあり、散歩時など 地域住民との挨拶や学生との交流が深まってい る。 必要があれば随時メンバーを迎え入れサービスの 向上のため意見をいただく。</p>
9	<p>市町との連携</p> <p>事業所は、市町担当者と運営推進会議以 外にも行き来する機会をつくり、市町とと もにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>市町村へ運営推進会議での報告書・ホーム内の状 況を報告し、相談等行い連携を図っている。</p>		<p>市が開催している地域の高齢者交流会等への参加 を心がけている。</p>
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業 や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、 個々の必要性を関係者と話し合い、必要な 人にはそれらを活用できるよう支援してい る</p>	<p>状況に応じ関係者へ地域福祉権利擁護事業や成年 後見制度についての説明を行い、必要な人が活用 できるように支援する。</p>		<p>今後、施設内外問わず、研修等に積極的に参加 し、職員全員でより理解を深めていきたい。</p>
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法 について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や 事業所内で虐待が見過されることがない よう注意を払い、防止に努めている</p>	<p>毎月1回職員で勉強会を行い高齢者虐待について 学ぶ場を設けている。また、施設外の研修など できる限り参加している。</p>		<p>法の重要性を職員全員で理解し、意識を高くも てるよう取り組んでいきたい。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入居時には「契約書」「重要事項説明書」を提示しながら説明し、同意の署名を頂いている。また、解約の説明についても同様に行っている。</p>	<p>家族会および面会時など家族に声をかけ不安・疑問点等相談に応じている。</p>
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>入居者の心理的状況変化がみられる時には管理者・職員が個別で相談に応じ、対応策を考えている。</p>	<p>入居者の苦情・要望等について家族とも話し合い入居者の過ごしやすい環境作りに勤めている。</p>
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>年に3回程度家族会を行い、意見・要望を聴取している。毎月ホーム便りを送付し、入居者の状況に変化があれば随時報告を行い、家族との交流・コミュニケーションをとっている。</p>	<p>入居者・家族からの意見に関して組織的な流れの中で会議を持ち問題解決され、迅速に対応している。</p>
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族への参加の呼びかけや、定期的に家族会をもち意見・要望等を事業所に反映させる取り組みがある。</p>	<p>日常的な家族の訪問・家族会開催時を利用して家族からの積極的な意見・要望・苦情等が伝えやすい関係作りを行う。</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>運営者と管理者は密に連携をとり、職員から管理者にあがった意見などを運営に反映させている。</p>	<p>職員は自分の意見や相談を管理者に話しやすい環境にある。</p>
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>4交代のシフト制にしており、急な状況の変化などに対応できるようにしている。</p>	<p>現段階では入居者・家族の要望に対応できることが限られている。今後、より柔軟な対応ができるよう取り組んでいきたい。</p>

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員移動について、交代時には前任者より後任者に情報提供を密に行いスムーズに交代が行われるよう配慮する。</p>		<p>入居者の日常の経過がわかるようにケース記録の中に記録し確実な情報伝達ができるよう配慮する。</p>
5. 人材の育成と支援				
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>施設内で毎月計画的に勉強会・カンファレンスを継続し、ケアの向上を目指している。機会を見つけ外部への研修にも受講している。</p>		<p>年間を通じて多くの学ぶ機会をつくり職員全体で有効に活用できるよう取り組んでいきたい。</p>
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>管理者間は周辺地域の他施設との交流を図り情報交換を行っている。</p>		<p>グループホームの質の向上を図るため地域での交流を深め地域連携の中でのサービスの質の向上に取り組んでいきたい。</p>
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>運営者が職員の意見を言える機会を作っている。</p>		<p>職員がストレスを溜めずに業務ができるような工夫・環境作りを運営者と共に取り組んでいきたい。</p>
22	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>定期的に意見が言える場を作り個々の取り組みに評価している。</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>最初は本人よりもご家族の方が相談に来られることが多いが、その後見学や面接を設け、本人の思いを聞き不安などを少しでも軽減できるよう努めている。</p>	<p>本人・家族の了承が得られれば自宅を訪問し生活環境を確認している。また、自宅で使われていた家具・写真など持ち込んでいただき少しでも自宅に近い環境になるよう取り組んでいる。</p>
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居前までに話し合いを持ち家族が抱える不安・要望をできる限り受け止めるように努めている。</p>	
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>相談を受ける中で、グループホーム入所が適切でない場合もあり、本人・家族の意見を尊重しながら本人にとって最適なサービスが選択できるように支援している。</p>	
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>在宅から入居される場合は、担当ケアマネ・家族・本人と話しを行い、自宅を訪問し生活環境を確認する。ホームの見学、ホームで過ごす時間を設け入所へ移行している。</p>	<p>認知症の特性を踏まえて、環境の変化でのダメージを考えながら、認知症の進行が最小限となるように更に取り組んでいきたい。</p>
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	<p>利用者と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>入居者の状況に応じて得意分野を把握し、食事作り・手芸・畑仕事等職員と共に行っている。</p>	<p>専門性を活かし日々の生活の中で入居者個々の特性を活かし自立した生活が送れるよう職員の統一した関わりに取り組みたい。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	利用者を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に利用者を支えていく関係を築いている	職員は入居者の認知症の状態や家族の状況を考え、偏ることなく対応するようにしている。また、入居者と家族の橋渡しとなるように心がけている。		家族へは『家族会』の参加を促し、なじみの関係が築けるよう働きかけている。
29	利用者と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの利用者と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	職員は入居者と家族の関係がよりよい方向に向かうように、また入居者と家族の橋渡しとなるよう心がけている。		入居者と家族が良い関係を築くこと、そして家族の一員として輪の中に入りより良い関係が保てることを思い、お互いに働きかけたい。
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 利用者がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	墓参りなどで家族と外出・外泊をされたりすることがある。また、地域行事に参加し関係が途切れないように努めている。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	食事作りの中で入居者同士が声を掛け合い行っている。洗濯物を干したりたんだりお互い支え合いながら行えるように努めている。		日常生活の中でもっと積極的に行えるような支援ができるよう取り組んでいきたい。入居者全員が楽しく生きがいを持てる生活ができるよう支援していきたい。
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	長期入院等により契約が終了しても併設特養と連携を行い関係を断ち切らないように努めている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1.一人ひとりの把握			
33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居前に生活環境を確認し、在宅での生活リズムが継続できるよう配慮しながら日常生活のケアの中で「できること」「できそうなこと」を見極め、本人の希望・意向を確認し、入居者主体のケアが行われている。</p>	<p>認知症の進行に伴い、自己表出が低下していくことが予測されるが日々の変化を的確に把握し職員全体が情報を共有しながら個々の尊厳を大切にしたいケアの構築に取り組んでいきたい。</p>
34	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>入居者との会話以外にも面会に来られた家族などからも情報を得ている。</p>	<p>職員の気づきを全員で共有し日常生活の中で活かす事ができるよう取り組んでいきたい。</p>
35	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>一日の様子を記録に残している。また、職員の気づきを連絡ノートに書き職員で共有している。</p>	
2.より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>入居者本人・家族から収集した生活歴・心身の状況等を基に職員間で話し合い介護計画を作成している。</p>	<p>認知症高齢者の特性を理解し、本人・家族の要望を引き出しながら、職員のケアの関わり方にズレが生じないような個別具体的な介護計画の作成と介護計画に沿ったケアの実践に取り組んでいきたい。</p>
37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>カンファレンスを開き、随時見直しが実施されている。</p>	<p>日常的に入居者の変化を職員間で共有し本人・家族の意見要望に応じ継続的な見直しに取り組んでいる。また、状態の変化がない場合もカンファレンスを開き介護計画の見直しを行っている。</p>

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	<p>個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>連絡ノートを作り日々の気づきを細かなことでも記載し、職員間で共有できるようにしている。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>入居者・家族の意見要望等に関して速やかに対応できるよう連絡ノートを利用し情報が伝達できるよう取り組んでいる。</p>		<p>柔軟な対応・配慮ができるよう職員間で話し合っている。今後、医療連携体制を生かしホームとしてどのような対応や配慮をしていくか今後取り組んでいきたい。</p>
4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	<p>地域資源との協働</p> <p>利用者や家族等の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している</p>	<p>民生委員やボランティアの協力で定期的に銭太鼓や歌唱等を施設で開いていただいている。</p>		<p>地域との関わりをより強く持てるよう地域資源の活用に取り組んでいきたい。</p>
41	<p>他のサービスの活用支援</p> <p>利用者や家族等の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている</p>	<p>運営推進会議などを通じて他の事業者との交流を深めている。</p>		<p>地域での社会資源を活用しサービスの幅を広め、よりよいサービスを提供できるよう取り組んでいきたい。</p>
42	<p>地域包括支援センターとの協働</p> <p>利用者や家族等の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している</p>	<p>地域包括支援センターとの関わりについては、運営推進会議が主となっている。また、権利擁護に該当する入居者は現在はいない。</p>		<p>今後、入居者にとって必要と想定される場合を考え、地域包括支援センターと協働できる体制をつくるよう取り組んでいきたい。</p>

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>公立病院・歯科との連携を行っている。看護師ともいつでも相談ができるような体制が整っており、スムーズな対応ができています。年に1回検診を行っている。</p>		<p>事業所指定の協力医療機関とは異なる病院を希望される場合は、家族にも協力をいただき受診していただくよう支援している。</p>
44	<p>認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	<p>必要に応じかかりつけ医より専門医の紹介をしていただくこともある。</p>		
45	<p>看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	<p>併設の特養看護師が毎日の健康管理や病院との連絡調整を行っている。職員が相談できる体制も整っている。</p>		
46	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>入院時には入居者の状態を病院へ細かく伝えるようにしている。入院中にはお見舞いに行ったり、病院のソーシャルワーカーと連絡をとり早期退院にむけた話し合いを行っている。</p>		
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>併設の特養と連携し在宅サービス等も考えながら退所後連携が取れる体制が整っている。終末期の希望については、本人・家族・病院等と話し合い対応を考えていきたい。</p>		<p>家族との十分な話し合いを持ち終末期への取り組みを納得と同意を取りながら対応していきたい。</p>
48	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>現在の入居者や今までの退去者の状況を踏まえて事業所として「できること・できないこと」を考えていきたい。</p>		<p>終末期における入居者の支援についてかかりつけ医とも相談し対応していきたい。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49 住み替え時の協働によるダメージの防止 利用者が自宅やグループホームから別の 居所へ移り住む際、家族及び本人に関わる ケア関係者間で十分な話し合いや情報交換 を行い、住み替えによるダメージを防ぐこ とに努めている	入居時には本人・家族・担当ケアマネージャーより 日常生活状況・情報提供をいただいている。 また、少しでも落ち着いて暮らせるよう本人の使 い慣れた家具など持ち込んでいただくようにして いる。		環境の変化に少しでも居心地の良い場所となるよ う馴染みの物を持ち込んでいただいている。
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1.その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50 プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ね るような言葉かけや対応、記録等の個人情 報の取り扱いをしていない	職員は、入居者個々に対して和やかな雰囲気を作 れるように心がけている。また、認知症状等の進 行によりトイレ介助が必要な方に対してもプライ バシーの配慮を行っている。		入居者と相談しながら、居心地の良い場所の提供 が図れるよう心がけ誇りやプライバシーを尊重し た支援がなされている。
51 利用者の希望の表出や自己決定の支援 利用者が思いや希望を表せるように働き かけたり、わかる力に合わせた説明を行 い、自分で決めたり納得しながら暮らせる ように支援をしている	入居者の自己決定を尊重し、入居者個々に合った 声かけを行っている。できる限り本人の意思を引 き出せるよう努力している。		入居者の主張を尊重するような姿勢・声かけを職 員が常に意識を高く持って取り組めるよう取り組 んでいきたい。
52 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのでは なく、一人ひとりのペースを大切にし、そ の日をどのように過ごしたいか、希望に そって支援している	決められた日課でなく、入居者のペース・希望を 尊重しながら一人ひとりに合わせた日々の生活支 援が行われている。		意思表示が困難な入居者へは個々の思いが引き出 せるよう一人ひとりに応じた支援に取り組んでい る。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれがで きるように支援し、理容・美容は本人の望む 店に行けるように努めている	併設特養へ週に1回美容院の方が来られ身だしな みを整える環境にある。また、希望があれば入居 者が以前から利用されていた美容院にも行ってい る。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	併設施設からの配食だけでなく毎朝食・週2回の昼食作り・月1回のおやつ作りを入居者の好みに合わせて職員と一緒に作っている。盛り付け・後片付けは入居者の力量に合わせて自発的におこなっている。		入居者・職員がテーブルを囲み会話を交わしながら食事をする。
55	<p>利用者の嗜好の支援</p> <p>利用者が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	喫煙については施設の外にある喫煙場所で吸われている。おやつなどは週に数回買い物に行き好みのものを買われている。行かない人は欲しいものを聞き購入している。		
56	<p>気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	入居者一人ひとりの排泄についての観察・チェックを行いパターンを把握している。必要に応じて誘導や声かけを行っている。羞恥心に配慮しながら行っている。		
57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	一人ひとりの生活習慣に添うよう毎回好みの時間にゆっくりと入浴できるよう配慮している。		現在、部分介助での入浴の入居者が多いが、体調面・安全面・プライバシーに配慮しながら一人でゆっくり入浴が楽しめるよう配慮している。
58	<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>	生活の中で入居者それぞれの時間ができるよう居室で休まれる方もいればフロアで談話をされる方もいる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	気候や本人の気分・希望に応じて散歩や買い物・ドライブなど心身の活性につながるよう取り組んでいる。		自然に恵まれた施設周辺の散歩、天候・気温入居者の状況・希望にあわせて外出を楽しんでいる。また、年間行事計画を立て季節の慣わしを生活の中に取り入れている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、利用者がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭に関して施設で管理している。買い物の際は施設立替で購入されている。		今後、入居者の状態や力量等考え金銭のあり方について考えていきたい。
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	入居者の気分・要望などに応じて散歩やドライブなど心身の活性につながるよう取り入れている。		自然に恵まれた施設周辺の散歩、天候・気温入居者の状況・希望にあわせて外出を楽しんでいる。また、年間行事計画を立て季節の慣わしを生活の中に取り入れている。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	入居者と共に行きたい場所を考え外出の機会を増やしている。家族の協力を得て実現している入居者もいる。		現在、個別対応での外出の機会については少なく、今後家族への働きかけも含め強化して取り組んでいきたい。
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に利用者自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	現在、入居者から家族へ手紙を書いて送ることを支援している。事務所の電話を使い話をされている。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、利用者の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	居心地よく過ごしていただくようお茶をだし、くつろいでもらうよう配慮している。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員の勉強会で身体拘束について行うことがある。職員で話し合い身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		すべての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を理解があるとは言えず今後外部研修等も踏まえ取り組んでいく必要がある。

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66	<p>鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>	<p>職員の見守りの方法を徹底し、また一人ひとりのその日の気分や状態をきめ細かくキャッチすることで日中は極力鍵をかけず自由な暮らしを支援する。</p>		<p>身体拘束のみならず、言葉による拘束もない取り組みの継続に取り組んでいる。</p>
67	<p>利用者の安全確認</p> <p>利用者のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している</p>	<p>連絡ノートや引継ぎ等で職員間の連携を密にし入居者の様子を確保している。</p>		<p>確実に入居者の安全が確保できるように、時には柔軟に職員の連携体制を見直す必要がある。より職員間での連携を確立するよう取り組んでいきたい。</p>
68	<p>注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている</p>	<p>入居者の力量に応じて職員が場所の把握や見守りで対応している場合もある。明らかに危険が及ぶ場合に関しては職員が管理することもある。</p>		
69	<p>事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる</p>	<p>事故が起きた場合事故報告書に記録し、職員で事故の検討を行う。再発防止に向けての取り組みを行っている。</p>		<p>事故発生の状況・時間・場所等を記録に残し、職員で把握し意識を高める努力をしている。</p>
70	<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>	<p>事故発生時・急変時のマニュアルを作成し、勉強会で話し合いを持つことがあるが定期訓練までできていない。</p>		<p>全職員が事故や急変時に適切な対応ができるよう日ごろから理解を深めるように努める。</p>
71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>マニュアルを作成し年に2回入居者と共に避難訓練を行っている。地域の協力体制については自治会でお願ひしたり、運営推進会議で協力を呼びかけている。</p>		<p>消防署の協力を経て避難訓練・避難経路の確認・消火器の使い方などの訓練を定期的に行っている。消火器は定期的に点検、避難経路も確保されており、非常用食料の備蓄も用意されている。</p>

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて 家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大 切にした対応策を話し合っている	入居者の能力を活かして生活をしていただけ るよう家族に理解していただく。また、その中 で起こるリスクについても説明をしている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に 努め、気づいた際には速やかに情報を共有 し、対応に結び付けている	異変時にすぐに気づくよう普段から様子観 察を怠らないようにしている。異変時には 看護師・かかりつけ医と連携をとり対応 している。		
74	服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副 作用、用法や用量について理解しており、 服薬の支援と症状の変化の確認に努めて いる	入居者一人ひとりの処方箋を職員の見や すい場所に置き把握できるようにしてい る。		
75	便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防 と対応のための飲食物の工夫や身体を動 かす働きかけ等に取り組んでいる	入居者一人ひとりの排泄のチェックを行 い、排便周期を把握するようにしてい る。便秘気味の方に対しては水分を多 く摂っていただいたり工夫をしてい る。		便秘気味の方でどうしても難しいよう であれば下剤を使用する場合もある。そ の際には、入居者にあつた薬や種類・ 時間等考えおこなっている。
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、 毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に 応じた支援をしている	歯磨きについて毎食後入居者へ促して いる。義歯の洗浄についても必要に応 じた支援をしている。		口腔ケアの重要性について、職員で理 解を深めるように取り組んでいきたい。
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一 日を通じて確保できるよう、一人ひと りの状態や力、習慣に応じた支援をして いる	食事摂取状況は毎日チェック表に記録 し職員が情報を共有している。また、 定期的に管理栄養士に専門的アドバイ スを受けている。		脱水等による疾患の弊害が考えられる ため大まかな水分チェックを記入して いる。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肺炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染症についてのマニュアルを作成しそれに沿った対応をしている。予防についても職員・入居者共に手洗いうがいを励行している。		感染症に対する職員の意識を高く持つために感染症が流行する事前に勉強会を開いている。
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食器や調理器具は洗浄後乾燥機にて熱消毒をしている。まな板やふきんなどは定期的に塩素消毒を行っている。食材に関しては、極力早い日数で消費できるようにしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関の前には植木や生花など飾り、入居者が作った置物など親しみやすい雰囲気作りを心がけている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関周辺には季節の花が植えられ自然光が差し込み換気もよく居心地の良い共用空間でゆったりと過ごされている。また、手作りの装飾品などで家庭的な雰囲気を作る工夫をおこなっている。		フロアの飾りつけや家具の配慮は利用者と一緒に考えて、利用者と共に生活空間を作るような取り組みをおこなっている。
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールからリビングはつながっているため一人になりたい時は自室しかないのが現状である。リビングにはソファを置き誰がどこに座っても良いようにしている。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>以前から使われていたタンス・ソファなど馴染みの物を居室に持ち込んでいただき、一人ひとりが安心して過ごしやすい雰囲気が感じられる居室になっている。</p>		<p>写真や日用品なども持ち込んでいただき入居者の方の居心地の良さに配慮している。</p>
84	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	<p>職員が入居者に聞きながら温度調整をこまめに行っている。また、1日に1回は換気を行い空気の入替えを行っている。</p>		<p>各居室の温度調節についてよりこまかな配慮が必要かと思う。居室によって日当たりが違い配慮が求められる。</p>
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>暮らしの場として雰囲気を損なわないようにしている。また、共有部分には手すりを取り付け各居室・トイレのドアも広く使いやすいように設置している。</p>		<p>現在の入居者が重度化した場合の対応等を今後考えていかなければならない。</p>
86	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>	<p>本人ができる限り自立を促し洗濯物など自分でたたんでいただいている。居室入り口には自分の写真を貼りわかるように工夫している。</p>		<p>入居者の状態の変化に応じた対応ができるよう職員間で情報を密にし統一したケアができるよう取り組んでいきたい。</p>
87	<p>建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>	<p>ベランダ横には野菜を植えており入居者は水遣りをしたり、収穫時には一緒に収穫を楽しんでいる。</p>		<p>ベランダ部分について現在は洗濯物を干していることもあり有効に活用されているとはいえない。今後、良い活用方法を考えていきたい。</p>

( 部分は第三者評価との共通評価項目です)

. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

可能な限り自宅に近い環境を提供できるように事業所としても取り組んでいる。利用者と職員と一緒に生活をし、ゆっくりと穏やかに過ごせるように取り組んでいる。極力できることは自分で行ってもらうように促し、また入居者同士助け合いの気持ちを大切に持って生活をしている。